

新聞紙をリサイクル! 紙の“まき”を作ろう

1 はじめに...

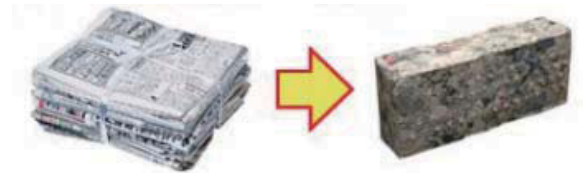


紙与作は、水に浸した古新聞を型に入れて固め、簡単にリサイクル燃料「紙の“まき”」が作れる商品です！
紙与作を使って、春～秋はアウトドア、冬はまきストーブ等に、一年中使える紙の“まき”を作ってみませんか？

2 紙与作ってどんな商品？

1. 新聞紙が紙まきに！

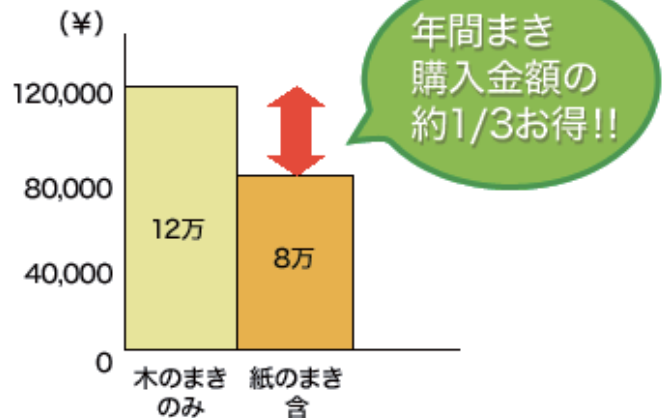
『紙与作』はどこにでもある新聞紙をリサイクルして、アウトドアをはじめ、暖炉、ストーブ、農業用暖房機など、まきを燃料とするいろいろな器具などの燃料となる「紙のまき」を作るユニークな道具です。木のまきや炭の補助材としてご使用ください。



お得で安全!! 紙のまき!

2. まきの消費が1/3減る!

「紙のまき」は熱量も灰も木のまきと殆ど変わりません。紙まき(1)に対し、木まき(2)の割合で、補助材として幅広い用途で使用が可能。つまり、木のまきの消費量を1/3程度減らすことができます。紙のまきは1時間30分程度かけてゆっくりと燃焼します。(紙のまきの圧縮率や燃やす条件・状況により異なります。)



*まき一束¥500、年間240束使用として換算した場合
*まきのみ金額の約2/3程で済み経済的

3. いろいろ使える!



アイデアひとつで、アウトドア料理、キャンプファイアー・暖炉、まきストーブ、だるま・ブリキストーブ、ピザの窯、陶器の窯、農業用暖房機、非常時など、いろいろな場面で紙のまきを活用できます。

※紙のまきは、木のまきと同様に煙がでます。網焼きのバーベキューにはお勧めしていません。(網焼きバーベキューでは通常、煙が少ない炭を使用します。)

※木のまきや炭の補助材としてご使用ください。

3 作り方

では、さっそく紙のまきを作ってみましょう。
水分が出ますので、床がぬれても良い場所で作業することをおすすめします。

4 用意するもの

- ・紙与作 本体
- ・新聞紙 20枚（開いた状態）
- ・水またはお湯を入れたバケツ
- ・軍手

※カラーチラシは使用しないでください。



1. 新聞を水に浸し、細かくする



新聞紙を1枚ずつバケツの水に浸し、揉みほぐしながら細かくします。
揉みほぐすとカンタンに細かくちぎれます。

2. 紙与作に詰める



細かくした新聞紙を取り出し、ケースの隅々まで厚さが均等になるよう全体に詰めます。
水が溢れても良い場所で作業しましょう。

3. 水分を出す



押し型を乗せハンドルを持ち、徐々に体重をかけながら水分を出します。
体重を掛けると、水分がじわーっと出てきます。

※ハンドルを押す際に手が痛くなる恐れがあります。

軍手を着用するか、ハンドルをタオルなどでカバーして、必ず手でご使用ください。

4. 2-3を数回くり返す



上部に出た水分は、紙与作を傾けて捨てます。この作業を2~3回程度くり返します。上から出た水分も都度捨てます。

5. 取り出す



水分が出なくなったらケースから押し型を取り出し、次にケースの左右の端を持ち、揺らしながら引き抜くように取り出します。
崩れないように注意！

6. 乾燥させて完成！



1週間~10日ほど風通しのよい場所で乾燥させて完成です。

完成！1時間30分ほど燃えます。

※十分に乾燥させてからご使用ください。

乾燥したときの重さの目安は、新聞紙20枚の場合約400gです。
木のまきや炭の補助材としてご使用ください。

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

▶アドレスはこちら・・・

<http://www.komeri.com/howto/>